Keizai Koho Center

ＡＳＥＡＮジャーナリスト招聘プログラムを実施

2026 年 10 月 20 日～23 日
参加者：ニーナ・Ａ・ロアサナ ジャカルタポスト紙 アシスタントエディター
デクスター・カバルサ　フィリピン・デイリー・インクワイアラー紙
チーフ・オブ・レポーターズ
ジュターマー・タッティヤムロム バンコクポスト紙 上級記者
ヴ・カイン・リン ベトナムニュース紙 記者・サブエディター

経済広報センター（筒井義信会長）は10月20日～23日、ＡＳＥＡＮジャーナリスト招聘プログラムを実施した。

ジャカルタポスト紙アシスタントエディターのニーナ・Ａ・ロアサナ氏、フィリピン・デイリー・インクワイアラー紙チーフ・オブ・レポーターズのデクスター・カバルサ氏、バンコクポスト紙上級記者のジュターマー・タッティヤムロム氏、ベトナムニュース紙記者サブエディターのヴ・カイン・リン氏の４人が参加した。

■有識者と懇談

石井正文元駐インドネシア大使との懇談では、混迷を深める世界情勢のなかでのＡＳＥＡＮの立場や、各国と大国との関係などについて活発に意見を交わした。

亜細亜大学国際関係学部の久野新教授は、日本の経済安全保障政策について説明。日ＡＳＥＡＮ双方が経済的に自立しつつ、危機対応力を高めていくことが重要だと強調した。

一橋大学の山重慎二特任教授は日本の少子高齢化問題について説明し、近年のＡＩなどデジタル技術の進展が少子化を助長する可能性にも言及した。これを受けてジャーナリストらは、自国に先行して少子高齢化が進む日本の現状や対応に強い関心を示した。

福田達夫衆議院議員からは、日本経済の現状や、日本が経済成長の過程で培ったＡＳＥＡＮと共有できる知見や経験などについて、自身の経験も交えて説明があった。

外務省アジア大洋州局の北郷恭子参事官からは日ＡＳＥＡＮ関係の現状と展望について、資源エネルギー庁の山田亮太長官官房国際課課長補佐からはパワーアジア構想について説明を受けた。

■企業訪問

三井物産、三菱重工業、全日本空輸、富士フイルムホールディングス、ＥＮＥＯＳを訪問した。

各社からは、グリーントランスフォーメーション（ＧＸ）、エネルギー、航空、ヘルスケアなどの分野でのＡＳＥＡＮ各国における事業展開や、ＡＳＥＡＮとの協力の取り組みについて説明を聴き、議論を深めた。

■シンポジウム

22日には、東京・大手町の経団連会館でシンポジウム「グローバル課題の解決に向けた日ＡＳＥＡＮの共創深化」を開催した。

国士舘大学政経学部の助川成也教授が基調講演を行った。

助川氏は、世界経済の分断が進むなかで、ＡＳＥＡＮにおける多面的な外交、通商戦略の現状や課題を解説。ＡＳＥＡＮを単なる製造拠点ではなく、価値創出拠点へと転換させるため、日ＡＳＥＡＮパートナーシップを再構築する必要性を指摘した。

パネル討議では、招聘ジャーナリスト４人と、シンガポールのザ・ストレーツ・タイムズ紙のウォルター・シム日本特派員が、各国の視点から日本への期待などについて発言した。

エネルギー、先端技術、高齢化社会などの分野で、日本とＡＳＥＡＮ各国がどのように共創を進められるかについて、助川氏および会場参加者も交えて活発に議論した。



ENEOS を訪問

以　上

一般財団法人
経済広報センター

国際広報部
〒100-0004　東京都千代田区大手町 1-3-2　経団連会館 19 階
電話：03-6741-0031
https://www.kkc.or.jp/
https://en.kkc.or.jp/

※本稿の無断転載を禁じます。